



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 15 vertical columns, reading from right to left. The characters are faint and difficult to decipher, but appear to be a form of historical Japanese or Chinese script. The ink is light and the paper shows signs of age and wear.

Small handwritten mark or character on the right edge of the page.

Small handwritten mark or character on the right edge of the page.

Small handwritten mark or character at the bottom right corner of the page.

Handwritten musical notation on a staff, likely a vocal line. The notation consists of a series of notes connected by a melodic line, with some notes having stems pointing upwards or downwards. There are some markings above the staff that appear to be lyrics or performance instructions, though they are difficult to decipher due to the cursive handwriting. The notation is written in a style characteristic of early modern manuscript notation.

Handwritten Japanese text in kuzushiji style. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are densely packed and show significant variation in stroke thickness and direction, typical of the cursive style. Some characters are written with small annotations or variations. The text appears to be a transcription or commentary related to the musical notation on the adjacent page.

別あり 細同 分教 別領

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

細 糸のつむぎは、
細 糸のつむぎは、

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines. The script is dense and cursive, typical of historical manuscripts. There are several small, illegible markings or symbols interspersed within the text.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines. The script is dense and cursive, typical of historical manuscripts. There are several small, illegible markings or symbols interspersed within the text.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. There are several lines of text, with some words appearing to be written in a larger or more prominent hand. The text is written on aged, slightly yellowed paper.

編
校
司

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. There are several lines of text, with some words appearing to be written in a larger or more prominent hand. The text is written on aged, slightly yellowed paper.

編
校
司

乃如蒙の南條の志らむありあつしうちもあつしうち
さだめ蒙とさあひあひしつれは蒙のしるるはあひい
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち

あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち

ゆえん一これのうちもあつしうちもあつしうち

あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち
あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち

あつしうちもあつしうちもあつしうちもあつしうち

あはれ又人の心もつとよよいふるらん
あはれ又人の心もつとよよいふるらん
あはれ又人の心もつとよよいふるらん

この人をもて後いふにせんあられあふくも
くもまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま

あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま

あはれまてしきまうもあふくもあはれま

あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま

あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま

あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま
あはれまてしきまうもあふくもあはれま

并ありけむし〜ろくし観也 細岡之

紙註コカラシ 本枯の女乃家のこゆ也

拾 雲井あそあひか〜るぬほいふと我ちとらそけりけり

わうけぬ〜 車うもあつとら也改もあつ也

も〜らゆはらも〜か〜もらもや〜もらんは〜も〜ら〜

ら〜と〜 采の〜ら〜ら〜ゆ〜ら〜

か〜ら〜ら〜ら〜れ〜ら〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

は〜ら〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

菊〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

二条一の里小路あり

花を井よりや〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

色〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

のの奇〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

一万里小路は有と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

么 嘆瀟萃 注 嘆ハ食也文章と〜ら〜ら〜ら〜ら〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

ち〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

たりてあそむてつたげきりて六式の邦曲ハルキョクやまゝ
 くてうらまふれよふぢや細ヒは飛トビを升ノボりてうらまふに
 やまゝいひて一の節ノをさるやけつるさうさ式シキよまゝに
 いかるとはさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 きた大人賦ウチノキタノヒトノヒカキ漢カン之ノ司馬シマ相ソウ如ニ傳ツふあり文選ブンゼンとありいあやまりこ
 うとせん和琴ワキンとまゝのさうさうさうさうさうさうさう
 せりしはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うらまふあして

和琴ワキンにうらまふさうさうさうさうさうさうさう
 そつてつる也和琴ワキンハ伴特ハナトク終ヲ伴特ハナトク冊ニ宮ミヤ所シヨ内ノ合カ節セツ也
 の法ヨウ樂ラク器キ乃ニさうさうさうさうさうさうさうさう
 といふ也物モノ名ナ明メイ紀キ云ニ和琴ワキンハハちうさうさうさうさう
 らてもちひちちのちうさうさうさうさうさうさうさう
 右海物ウミモノ也彼国古クニ道ミチ文ブ云ニうらまへ張テ律レ樂ヲ新ニ

あつぬといふさうさうさうさうさうさうさうさう
 長夏ナガタハ長也ナガカ杜ツをハ律レ也ニ又マタ女メ也ニ平調ヘイテウにちうさうさうさう
 うらまふにさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ものさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 律レハ杜ツ也ニ又マタ律レハ陸リクもハれハ女メのニ也ニ町チヨウ郎ロウ律レ云ニ月ツキもハれハ也
 新ニ也ニあつちうさうさう

ものうらまふさうさうさうさうさうさうさうさう
 うらまふにさうさう物モノのニあつちうさうさうさうさうさう
 あつちうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 和琴ワキンもハれハいハらハまハりハあつちうさうさうさうさうさう
 ちうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ていさうさうさう

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive script.

たうけんとて

糸はりの翠ハ常ナ十三縷の翠也 盤沙綱

ハその綱より取らるればおろしき糸もあるべし

かゝる糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

一廉ある凡そ糸の海也 一廉ある糸とては糸もあつた

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

色もよふ人も本指の女や幸ふようならん

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

糸はあつたねとまゝに糸はあつたねと

尋まてとるにぬへし 祇 藤の落つてしはしむるに

よしむるにぬへしはしむるにぬへしはしむるにぬへし

かゝるにぬへしはしむるにぬへしはしむるにぬへし

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

源氏よまらぬはしむるにぬへしはしむるにぬへし

しむるにぬへしはしむるにぬへしはしむるにぬへし

せむちりしはしむるにぬへしはしむるにぬへし

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

あつきの後やあつきのあつきのあつきのあつきの

み物彼らふらそらうらうらひゆえらうら
ひわりしまよ也

中物るふらうらなれもの物らうらとせんとして

^茶茶ははひよさうひら物らうらとのゆ也 ^茶茶

物らうらうらうらふも也 ^茶茶 ^茶茶 ^茶茶

^茶茶 ^茶茶 ^茶茶 ^茶茶

^茶茶 ^茶茶 ^茶茶 ^茶茶

世中に志れらうらうらうらうらうらうらうらうら

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくく

くくく

のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 きこむるありしころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 ねりたももあへんともいふにむらさき色にあらはれしころに
 ちもいふてしるしはつねに思ひたれしころにあらはれしころに
 せし
 第一はさかすかにしるしのさすけつをみるる
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 う源氏よへんころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まてさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし

のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし
 のさきかゝるころはさかすかにしるしのさすけつをみるる
 まのさかすかにしるしのさすけつをみるる
 せし

あてらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

^{古ナリ} 恋もまじくしんぞ思はうらと坤と我わら床よれ花

^海 みてしにさしあしんぞとてむらうら我はよるれし

よきそしんぞあまの昔あま夕顔よの心よるあせ

魚の昔のあまの昔あま夕顔よの心よるあせ

^細 よらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

よらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

うらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

夕顔よの心紙もあせ

よらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

の世ひよおとらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

ていつらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

^細 夕顔よの心紙もあせ

えらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

せらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

えらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

みまらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

わしてはいつらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

しんぞあまの昔あま夕顔よの心紙もあせ

あせらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

^果 夕顔よの心紙もあせ

まゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

俗伸 竜鐘 流離 日本紀 己忍俗伸十年中強

移栖息一枝安杜甫

何れとらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ

ひらうりさしにまゝくさむ夕顔よの心紙もあせ


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

吉祥天女キキヤウテンニヨハアリの御心ミココロを祈りて
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

吉祥天女キキヤウテンニヨハアリの御心ミココロを祈りて
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

武アウ詞也

らぬまゝにいぢりていひぬまゝにけりよ
 れ物也まゝにいぢりていひぬまゝにけりよ
 やうなれと事なりぬれいふまゝにけりよ
 いかんもの女も女家なるにふりて式なり
 ことごとくはかしくもいぢりていひぬまゝにけりよ
 礼とをそ時の礼なりともいぢりていひぬまゝにけりよ
 易稼々早粒其丈夫女家女親を晩者能始けいぢりて
 じよめいふまゝにけりよとほりていひぬまゝにけりよ
 文集素中吟花をいふかゝりていひぬまゝにけりよ
 のちやの心ごとくいぢりていひぬまゝにけりよ
 またはいぢりていひぬまゝにけりよ
 はうまうらふいぢりていひぬまゝにけりよ
 ういぢりていひぬまゝにけりよ

ていひぬまゝにけりよ
 じよめいふまゝにけりよ
 師とをそ時の礼なりともいぢりていひぬまゝにけりよ
 そのねんをいぢりていひぬまゝにけりよ
 又とハ待りていひぬまゝにけりよ
 云はりて待りていひぬまゝにけりよ
 蛇腰痛と云ふありそれいふ白の身二字や中五字と同
 色なるは病とも同色と云ふ色去色入色のいぢりて
 の病と云ふにわかれぬもいぢりていひぬまゝにけりよ
 身やいぢりていひぬまゝにけりよ
 ね腰痛もそいぢりていひぬまゝにけりよ
 じよめいふまゝにけりよ

あゝぬきあられらやうにあらはるるうらうらしたるに
てはやせんの也 細 或は是と志するはともあは
このうらうらとて思ふしは物さへしはくもあはる
せらるると思ふとて松らりあり

さうし 女 のものさうりやまあるの也

髪をさうりさうりやう 女 や言也

月さうりやう 女 の髪はさうり 女 腹痛也 細 同

細 同 和 同病

あゝ移ちのらやくとくしていつとくも地よりのさるじえ
きいめんたるうらぬまのあつらひあつとく

さう移ちや 女 の夏の暑氣也 細 移ちや 女 とくとも

やうさうく 女 の髪也 女 の髪をさうり 女 の髪也 細 同之

は河海 女 の流相違乃より 女 の髪はさうり

らうやくのうらぬる 細 移ち草葉服正喜式云八十

移ち葉 女 の移ち葉中 細 移ち葉 女 又令葉

新葉 女 と 細 出用のひらも 女 の葉は 女 の葉也

はらう 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

り 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

り 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

り 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

り 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

細 女の髪也

髪 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

さう 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

さう 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は 女 の髪は

よるあし 采 不夜也 女らんばわむらるる也

はらふのあつちのこころにたふさきいひのちかひもあつちのあつちの
まアうき心はばきうもらん何なるもあつちのこころにたふさ
めしてくさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
我らんくさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
蒜と登りてあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

細 たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに
たふさういふもあつちのこころにたふさうもあつちのこころに

それらもつゝ一統とてきあはるひるんやとてよる
亦アハうらまうりてぬる也

とるをて男も女も 糸毛とて又もぬる物は討のひとん也

博士のひしあ乃方字たてしるはうらぬゆとらう

軽乃羽くまんとらう 細あまうと総とらうとて馬乃

いんもとら也 阿 論語曰知者言未必尽也

よりおわりのに志事つたこのゆと跡とくんをばくあん

思つこもつとわらわれ 細けつ下 悉皆人の意と云也

きつるゆととも思ひてしつら也あまりにあま

てとともあしきる也

三史五経のみらくしきくつはあまらうにさうとあうあし

そ 又一階也 三史ハ 史記 漢書 後漢書
五経 毛詩 礼記 左傳 周易 尚書 伊行 尺ある三史

五経三道 詩傳 易傳 春秋 尺一をうと

并 女の力あは三史五経とあるしるはうらぬゆとらう

こもつとてあひさやあうん也

急武アうも也たあうてしきうらうとてしきうて

されもあうらうににきうてあうんもせしあ

あひりあうあ 糸一あまのぬの也

あまの女とらうんはうあうらうはあまの女とらう

あてしきもあまの女とらうとあうんはうらう

とぬとともうとてあうんのからあまの女とらう

とあひりあうあ 糸一あまのぬの也

あまの女とらうんはうあうらうはあまの女とらう

あてしきもあまの女とらうとあうんはうらう

とぬとともうとてあうんのからあまの女とらう

とあひりあうあ 糸一あまのぬの也

あまの女とらうんはうあうらうはあまの女とらう

あてしきもあまの女とらうとあうんはうらう

さうたるふのさあひとワシはぬほとやさひお
しきりえくおはよとやうに物也と日のまよりに
あやめとさうぬとつら面白也

花

五月五日の節天竺あやめれつとくも終く武徳殿
幸あり内弁外弁おさるのこく一内弁有秋草
内侍女苑人後命縷と群臣よ終く云秋ありて
六府騎射のりありとく又けあやの河や先とさぬ
燕とさるの奇乃ん同出仕と大幸やさつらふり
けはつのもつハゆよけぬうとやえさるぬ格と引くあつ
ろみくハえんるぬとの心也あやめの格いとれえんあ
おぬるれとけぬよらと云也 祇園園之 花えあ
ぬねとハよらとけぬあやめ先とさうえんく
りよらあぬとら何あまうあり燕とふるつじあ

えあぬとつらさくあぬん也えあぬ花るとい
ふもつら面白也又纏るぬやえんもさるん也
み日のおやちえさるぬあもあぬとつらさるねわ
ひきりけら移されえあぬといあやま 細えあ
ぬええんるぬ也えあもあらとえんるんさ
さるぬも言えとといのらんをわしれらさうとさ
るさうさうの家心はさるも也 某九日のえんま
くく此侍の心と思らうとまにあ履は法ありてあ履
詩とけらら也 花重陽の宴天竺南履は法ある
て内弁外弁あり文人博士とりて詩とたてま
めていとのく豹乃字と探して詩と作く又其のよみ
ね也三秋あり氷菓と居内履の左右は兼更乃つらとゆ
法系よ菊は花と執よりそとて家近代の宴の儀た

うらうしてまゝそ日のまじりたるべしや 采 幸也

古地つんをわだ 霖雨とこられて日のまじりたるべしや 采 幸也

雨風の物終乃 翌日也 コトとて 采 古地つんをわだ

とやうくして晴るるや 細 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

西より 采 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

とまじりたる コト 古地つんをわだ 采 古地の晴るる也

中納言の君中勢るとやこれとて人々をぬわるともた
 らぬれとるとの路のり 余 羨とらうとていあわ女房より
 いらう源氏とてきとあぬんともやとてあへきとぬと
 わり 花中あえんの君を源氏とて人々をぬわりの
 衣立とてうとしくんやオカシカサ中勢の君はスエツム末摘の君ふ源氏よ
 ろひとてなりて大宮にきとていつふそやとてあしんや
 あひさになれ終つる法有あるとも人々のひあをせわわひ
 せとていふと 余 羨とらうとていあわ女房より
 源氏乃序と海也雨のふれとて入るアツナ暑氣もらうと
 せとていふと 細 源の序お
 わりぬいより終つる

此は性をもてくわつてまうしては物終るまで終つと
 源氏うらうとこれ終つては羨とて性をもてては地を

まはつちやとてわつと終つて性をもて終つる人々
 まうとてわつとあつとていふとこの路のり一説大君と源
 氏と性をもててあつとてわつとていふと源氏の性と
 ろりさこれいふとぬともあつとていふと源氏の性
 源と羨との法中やんれとて大君の詞のふらや
 源氏おみとれ終つるわつとていふと羨とて性をもててわ
 たり也又源氏のおあつとてありしは大君との間とを
 たてていふと源氏の性同之 細 かつとていふと終つる
 まるれとて本了とていふとていふと源氏の性をもててわ
 たりとていふと源氏の性 細 かつとていふと終つる
 終つる 細 源の性も思ふ也
 人々をぬわあつとていふとていふと源氏の性をもててわ
 らうとていふと源氏の性も思ふ也 かつとていふと終つる

ノをいづやとさこゆいといふあり 中川のりりり 案今

の系極河^カ是也 李^リ郡王^{ホウ}孔 案^案花物^ハ終^シ云^ク中河^中多^トよ^ヨ内堂^内

たてらる^ル 法^{ホウ}成^{テイ}寺^ジ 新^{シン}成^{テイ}院^{イン} 旧^{キウ}孔^{コウ}云^ク系極河^系二^ニ系^系以^以小^小号^号中川^中桂^桂河^河号^号

西河^西一^一 花^花 案^案花^花物^物終^終才^才回^回云^云中川^中よ^よ左^左大^大后^后及^及よ^よ地^地而^而有^有

きり父^チの^ノく^クれ^レう^ウも^モま^マけ^ケの^ノち^チ物^{モノ}長^{ナガ}と^トい^イひ^ヒあ^アる^ルの^ノけ^ケ

りて^リ任^任ける^{ケル}池^池を^をぬ^ぬか^かる^ルと^とあり^リて^テい^イと^トわ^ワく^クう^ウつ^ツら^ラり^リた^タく^ク

及^及の^ノ池^池を^をぬ^ぬか^かる^ル人^人と^とい^イひ^ヒたり^リあ^アる^ル家^家也^也け^ケり^リと^とせ^セと^トい^イふ^フ

案^案は^ハ物^{モノ}終^終乃^乃中^中河^河の^ノ家^家ハ^ハ紀^紀守^守の^ノ家^家み^みく^クを^を水^水前^前載^載る^ルと^とあ^アる^ル

て^テい^イふ^フも^モそ^ソう^ウ人^人と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

る^ルや^ヤも^モし^シ地^地よ^よう^ウあ^アら^ラし^シひ^ヒさ^サつ^ツれ^レつ^ツら^ラう^ウん^ンと^トい^イふ^フと^トの^ノ地^地也^也

車^車れ^レる^ル也^也 細^細 源^源の^ノ規^規也^也門^門が^ガら^ラ下^下車^車は^ハら^ラ下^下り^リし^シ也^也

五^五ひ^ヒく^クの^ノ法^法う^ウの^ノま^マう^ウと^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

の^ノ批^批判^判乃^乃洞^洞なる^ル也^也 細^細 源^源の^ノ心^心乃^乃あ^アる^ルあ^アら^ラし^シ也^也よ^よや^やと^ト

を^をあ^アら^ラし^シ也^也は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

え^エ池^池は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

あり^リて^テ又^又も^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

なる^ル也^也

ひ^ヒと^トい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

ま^マも^モ池^池は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

る^ル也^也 案^案源^源氏^氏の^ノ墓^墓上^上の^ノ池^池里^里へ^へ程^程く^くも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

久^久お^オも^モあ^アら^ラし^シ也^也は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

の^ノ池^池は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

ら^ラも^モ池^池は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

は^ハて^テか^カも^モ池^池は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

り^リよ^ヨの^ノ池^池は^ハ池^池と^とい^イふ^フも^モな^ナら^ラず^ズ案^案花^花物^物終^終と^と相^相違^違る^ル也^也よ^よや^やと^ト

ぬらりたる海とさる級よとあるへし終末のまゝを返
 乃るに有るを 河 噴 郷 日本紀 返とてしとて
 返とてよとある也 仍有音をき 花 返とてひるひ
 八引信本又とるにさる海とさる級よ音あるへし
 細 返とてよとてしとてさるはとて音をきまのり一花とて
 洗あり 殿 返とてひるひとてさるはとて音をきまのり一花とて
 返とてよとて音あるへし又とてさる海とて音をきまのり一花とて
 音あるへしとて音あるへし
 わらわらとてさるはとてさるはとて音をきまのり一花とて
 と返とてひるひとてさるはとて音をきまのり一花とて
 返とてよとて音あるへしとて音あるへし
 うしとて音あるへしとて音あるへし 細 女のあつたつとて
 返とてよとて音あるへしとて音あるへし

心とてしとて音あるへしとて音あるへし 茶 記 仔細は女房
 とて心はひるひとて音あるへしとて音あるへし 檄 檄ありとて
 中 河 勅 勅者世継ははつじつとて音あるへしとて音あるへし
 日本紀 發 墳とて音あるへしとて音あるへし
 返とてよとて音あるへしとて音あるへし
 紙とてのやわれりひるひとて音あるへしとて音あるへし
 返とてよとて音あるへしとて音あるへし
 やとてハ 茶 返とてよとて音あるへしとて音あるへし
 こららとて音あるへしとて音あるへし 細 返とてよとて音あるへし
 返とてよとて音あるへしとて音あるへし 茶 返とてよとて音あるへし
 うららとて音あるへしとて音あるへし 茶 返とてよとて音あるへし
 我信人なるへし 茶 返とてよとて音あるへしとて音あるへし

い... 源氏君... の... 行...

これ... 細... 行...

早... 行... 行...

式... 行... 行...

ゆ... 行...

ま... 行...

の... 行...

つ... 行...

批... 行...

類... 行...

く... 行...

と... 行...

ういをばまやうるもハ極後の神也それ対する句
也死 くのろくとを物のま死すありてうら死やよる
とよふ事とすうのと女居のよあうハこのまういぬこ
と也ま細 源氏乃まらうとととまうはしてむあり
てらひらさたる徳ある也是と女の要心ある人にと
るあり

ういそとてうらう高き人夫あううらまをうて

紀守まうとて夫らうとまをう也

清らう物らうとらうわう 果 葉ふ也 柑子又ハ揚の野を

也らうと情とわうふそとらうこれ心とらうておあう

さあういあうんとの終へるふらまむともえうあう海

らう海やういこまらうてあうぬ 果 源氏視也 借る果

呂我家の事にあるとまのこりーと源氏乃の終るまとた

非あてとほまひやうにうらうせうとほのあうう終るらと

紀もとらとまものあう何らまんやま事れらうらに

てらう人なる也んまうらうらととる也

和加伊戸波土波利情於毛多礼た毎年。於

於文奏支万世无已尔世无幾尤可奈尔奈

尔与尔无安波比尤多字加加世与尔无安

波比尤多字加加世与尔无 借る果

鳥案といるんハまう我家也 喜曲よりやうにらまゆらう

やむら愧也らうハ情也人君ハ人とまのまをてらうむと

ハ舞也アハうハ法着也るにらう人まやうひてあう

はらうとらまをらうらうみお貝乃るまやらうまをさういや

子貝放へて喜式方ハ螺とらう貝とよあう

是ハ我家と云後らう来れ奇に吾家ハ人らうと情ととま

借る果

借る果

くらげ大志らふまをせむにせんまをみさるれば何れも人あり
ひらさうらると云親也と係氏乃君の乃終んきと和雅よ
てとほろひつらにうらせよといふやうて大志を平のせ
むとにせんといふあはれうめうとの終る也紀書うめに
らきんととえうも終りうはといふらるんとて女はうま
やとせぬぬ心也と細説同之

ちへはのむらうにるるるやうておぼえのあはれ八人く
と志のうらぬ 細 係氏とらるとに寝行也

あつこのふとをわうきあてあり 采 是ハ紀守うみと也
わうたなる度ふらほるとにけいんへしるれらるるとあや

采 童^{ハラハ}度^エ上^キ回^キ云^キ常^キ本^キを^キよ^キ伊^キ分^キみ^キう^キ乃^キ度^キふ^キと^キ人^キさ^キら^キ終^キる^キ也^キは^キう^キ一^キ巻^キ云^キ若^キを
人^キの^キ終^キ性^キ定^キま^キら^キは^キ或^キ地^キ下^キ或^キ度^キ上^キ何^キも^キと^キう^キも^キ也^キと^キう^キも^キ也^キと^キう^キも^キ也^キ

のうらうと昇^{セウ}度^ド志^シらると度^ド上^ウといふ也父^ニを^シ地^ニ下^ニみ^ルこと
あつ人^ニし^テも

伊^イ分^フの^ノと^リら^フも^トあ^リ也 采 伊^イ分^フも^トと^リみ^トとい^フは^ハ在^リ官^ニ

と次^ジ官^ニと職^{シキ}掌^ニい^ハら^フう^ニさ^ハな^シ也^ハ徳^{トク}國^{クニ}の^ノ官^ニ候^ニ時^ニハ^ハ女^メ志^シ官^ニ

ら^フも^トと^リら^フも^トわ^ラら^フも^ト也^ハ故^コう^ニう^ラり^トあ^リ身^ミと^リみ^トとい^フ頃^ニ

テ^ノの^ノ志^シに^ニ大^{ダイ}貳^ニと^リ候^ニと^リは^ハ例^{レイ}也^{ナリ}と^リ細^コ 是^レハ^ハ紀^キ書^キう^ラ希^キ也^{ナリ}

あまうとあつ平^{ヘイ}に^ニいとあつと^トひ^ハわ^テと^リう^ラあ^リ也

あつと^トう^ラ希^キ 采 あつや^ハた^ニい^ハら^フも^ト也

十二三^ニも^トあ^リも^トあ^リら^レれ^ルの^ノ進^シら^フこと^ハひ^ハ行^クよ^シと^リれ^ル故^コ
進^シら^フもの^ノと^リあ^リう^ラこ^トう^ラい^ハと^リあ^リう^ラく^ニ志^シら^フも^トと^リは^ハ地^ニ下^ニも^ト也^{ナリ}
は^ハふ^トと^リれ^ルゆ^エあ^リる^ニ終^ルひ^トの^ノう^ラら^フに^ニう^ラて^テ侍^ルら^フ

采 是^レハ^ハ蟬^{セミ}乃^ハ才^{サイ} 小^コ君^{キミ}の^ノも^ト也^{ナリ}大^{ダイ}志^シの^ノも^ト也^{ナリ}八^{ハチ}才^{サイ}乃^ハ文中^ニ

細^コ言^{ゴン}や^ハ大^{ダイ}志^シ乃^ハも^ト也^{ナリ}紀^キ書^キう^ラ親^ニ也^{ナリ}紙^シ説^{トク}同^ニ之^{ナリ}

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 世^{ヨシ}の不定の事らあも女ハ
一^ニ際^ニく^ルも^ル也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也
宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

宋 定州府志と紀古くかゝる事也 宋 定州府志と紀古くかゝる事也

みか志もやにぬくくゆめつ紙 系 志もや次乃る也

細 紀の河下屋の船舎也

えやまうやわらうあふあふん 系 えまうやわらうあふあふや

中の河也

やまうやあふいしとるん 細 源氏乃清信のん也

これんくもとのまにあつと志のまうぬんもはとまをてと様

とねんぬさうとぬしやあゆさうに清光はあふけいさうは

うのあふさにいん乃あふさひさる紙 系 泉原乃

とのこたり

こまのやわらうあ人のうこれさうこあふんあやと清さうと

とあふくやまうあふさうと立あふさうん 系 かづりあふ

あやとけらふれとあふく物もあふ 系 小若うあふ也

物もあふは物也 ウチタタ

いやくにわらうとあふさうれさうと志乃あふ一たあふい

とあふ乃あふにさひあふ也 細 あふさうとあふ

あふさあふさう心也 細 あふさあふさうとあふさあふ

あふさあふさう 系 小若うあふ 細 あふさあふ

細 志の河也

あふさあふさう 系 源氏の河 細 あふさあふ

乃河也

いふにちうかんとあふさあふさあふさあふさあふさあふ

細 源の清 細 あふさあふさあふさあふさあふさあふ

清一也也

あふさあふさあふさあふさあふさあふさあふさあふ

細 小若うあふ

女とて男れす志よりくは也ハク古今序コキョよとて志のよとて
 一と八天懸太神のシノれくやうりあひめくまシノり
 とと如神カミなる故也シノ 細 姉シノとてりうシノくも也シノ系シノ備
 あり姉シノされともシノ女シノとてりうシノくもとす志よはる也
 望シノとてりうシノくもとてりうシノくもとす志よはる也
 房シノ連シノ乃シノ初シノ也

ととに志よはるけり者シノとてりうシノくもとす志よはる也
 てたりうシノくもとてりうシノくもとす志よはる也
 みそくシノにシノ 細 源氏シノ乃シノ初シノ也
 ひろくシノとてりうシノくもとてりうシノくもとす志よはる也
 細 源氏シノ乃シノ初シノ也
 源氏シノ乃シノ初シノ也
 源氏シノ乃シノ初シノ也
 源氏シノ乃シノ初シノ也

源氏シノ乃シノ初シノ也 花 是ハ源氏シノ乃シノ初シノ也
 て心よシノとてりうシノくもとてりうシノくもとす志よはる也
 一と八天懸太神のシノれくやうりあひめくまシノり
 とと如神カミなる故也シノ 細 姉シノとてりうシノくも也シノ系シノ備
 あり姉シノされともシノ女シノとてりうシノくもとす志よはる也
 望シノとてりうシノくもとてりうシノくもとす志よはる也
 房シノ連シノ乃シノ初シノ也
 ととに志よはるけり者シノとてりうシノくもとす志よはる也
 てたりうシノくもとてりうシノくもとす志よはる也
 みそくシノにシノ 細 源氏シノ乃シノ初シノ也
 ひろくシノとてりうシノくもとてりうシノくもとす志よはる也
 細 源氏シノ乃シノ初シノ也
 源氏シノ乃シノ初シノ也
 源氏シノ乃シノ初シノ也
 源氏シノ乃シノ初シノ也

八節のよもやを憚れくはふ也今源氏乃月よりさしす
うひたる人へ私書紙シウヘウシはしらるるひとありは内中ハす
ーちうひとあり

中納の君をさしりくみそ人きをさしけりして物おそりしや
いよまれし 案 皇極のりけりふ女房乃名也それと皇極

乃為路ふ河也 祇細目之也 後又源氏の君け名は路也
りさして家けるは路のり之也

あけし代もふ人くくくくくくくくくくくくくくくくく
ち路れは急なる人

志もふゆにわたりてきくくくくくくくくくくくくくくくく

案 中納ゆのちとに今くわくわくわくわくわくわくわくわくわく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

これさのまりぬきをひるれくけりひとくくくくくくくくくく

あきけられし 案 ちもよに世との通心とくはらとらんは
のちさよらとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
火をけのくくはよん路へくくくくくくくくくくくくくくく
もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
り路れしたくひくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくく 案 皇極のくくくくくくくくくく 細サハカなサハカ路 越エウシラフ仙セン客

細 源氏也

もくくははくくくくくくくく 案 皇極乃心はあもくくくくく
の君れゆらるるわたりて事キタわらるるを思り

中納りつれさるん人さきぬ思乃さくくくくくくくくくくく
多ふと 案 源氏の河也けさくくくくくくくくくくくくくく

も少居れどもさう然らうして中ね終りしはれどもさう
一の終りもさうさうとさう終るとさう終りたる終り
あり 紙目之 細 源氏高宮中ね也中將乃君の終りに
そを終りたる終りしはれどもさう終りたる終りたる
うに終り也

さうかくも思ひたる終りたる終りたる終りたる

糸を輝乃紗也

やとぬひぬきたる終りたる終りたる終りたる

やと 糸を輝乃紗也

うらはせきにあらうらぬん乃終りたる終りたる終りたる
年はさひやう心の終りたる終りたる終りたる
とあらうらうらうらもはれにあらうらうらうらうら
とやうやうらうらうらうらうら 細 源氏の終りたる終りたる

やうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

今秋のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

わらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

双紙の樹判あり

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
まらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
とらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

きせしもの後也

ふふんしきそてふうくー 某は世乃字にわんをきくた

まけぞり也 面とよん雪もよふちとらうきとひまり

又よもやあるがゆらよそれハ不^{ケルヲ}及^サはは^サク

思ふゆゑにうーささるもたれそていらいちのちもさるれんうま

りつさてはらうのものらて終うそとちうつの中おふ人さ

あひの家 細 中お乃君也

ややの終つた 細 け中おと源氏のうーよひの極也

あやーくそてさうらとよりそらにそらわんく白ひみりてう

ほふとくゆりう家妙らさうに 細 け中お也

わひひうらぬ 細 源氏あうまうまひと也

あさやうーうあしうらあるゆそやまのうられとあらんう

かーあしくれんあしんーまあらくうあとしひさうれらうめ

某 一のつひ^チい^イ乃人あうはちたの也 源氏のほふと中お

あつ也

それふ人のあまこきんいんあん心とささるて

中おふはうひとうたうりそれとよハまうとらうら也

まひひさるれと 某 ちうひ^{キカ}も也 一後^ノ下^ノひさるれとある

それとまうひさて心んうらやう

やうもあてわくなうあまうーに入終ぬ 中おもあて

細 ころれとー終もぬ也 必 云^{オラテ}動^ビ也

はらうーひささそてあうの^深に^カは^カじ^カ人^カは^カ物^カを^カま^カの^カ終^カ也

の終也

女をは人のあかんことあまぬらうとよりあつたよちうらこも

てあまにまりそいらちやまうあつたわんわんたれと

皇様の源氏よ心とあたまをさへくもがにちひひもたふくこと中
おうちとじしむとまぬらるるちひ行とのん也

まひ乃りぬらるるさうて行ことのをたうあへんけられちる家さう
ちひあふもくしくの終はひへあれたと とうて行

葉上り丸お終也ことまねぬくのあひはちちちる紙らりしむい
つひよんこといちやうにの終りの後也

あはれいとあさましうらに 細ちを標乃心也

うつやとせほしほしをぬあぬあふうと 細ちを標の初也

ねゆらうとちちる終ん乃終とらうあさくはちひをさへあへん
葉ちを標の初をぬらあふちる紙りたかすあふねとてう

やうにちとては源氏のあひくひ終りて後立ちてうや
又説よぬらぬらあふうとくやうに思ひまふるる終

くいひとあふ也

源氏物語の終りの後也

いとくやうかろさうりくもいもさへそゆるなれとてゆく行し
ら終るる紙少くあふもさうくうらうと也思入らるる後とまに
いとわくくもさうりくもいもさへひまれと 葉ちを標乃初也

終人少くもさうりのまらあれたまさうちちるゆと也された下
の行し源氏乃終るるさうりくもいもさへひまれとぬらあふと

そやとの終るる紙花みえよらう下らうればさうりくう
く紙同之 葉花よらう下終るるのさうりくもいもさへひま

ちちる終るる紙花みえよらう下らうればさうりくう
ちちる終るる紙花みえよらう下らうればさうりくう

そのさうりくもいもさへひま 細そのさうりくもいもさへひま
たいとたかきさのほとのさうりくもいもさへひま

うわくとそや申くことあふちを結らに思ひて行つらあへん
てありあつとのつらうちを結らとあへん うわくとそや

源氏はまのこそそのましくれりハズ(右)

あかりりたるも光んをあくにあつらぬと 細 源氏の親也

さやうのうこれより終らばにあつらぬと也
あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

あつらぬと也 果 あつらぬと也 又 あつらぬと也 又 あつらぬと也

ちとけししとうちやうしきぬうしとねがはしく

^細 源氏の詞也くくはあつぬてくらうらむるれ也

おほしちるまきまあるしとてそを契りお敵とそ思ひ給りあ

^茶 源氏のえ憎乃知ちるやとねお敵おちるうして毛とち

さうありてこそとあにそとそ給りあそと也源氏乃詞也

おほしせよとらぬおにねはしお給りあそとはしちるまき

しれて 茶 人あそまこあはぬ人のやうあそ也

おほしきとそを契らばれとらこも然りう

いとけししにたれはとこのはこまうぬ ^細 源氏の心中ちる

伊予ちの妻よぬてはらわらそと也 ^茶 源氏乃詞也

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

まじりうまのまじり ^茶 源氏とちるまきとこのちるまき乃知ちて

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

^細 ちるまき乃知ちとちるまきと世中とありしあつてれ我ちとちるま

ちるまき乃知ちは奇乃ん也あつてあつてあつてあつてあつて

ちるまきとちるまきと也

えあつてちのちきとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちと

^茶 ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちとちと

おれをばねしされやうたひきうまにたつた也

うし今いふきせあるもそとてさつらあふもたひいふとあつらひ

りり 糸 色輝乃ん也 御覧

それともたふさふさとして我若とてたふさふさの人のさうた

細 それともたふさふさとしてつら若さうさふさふさふさふさ

そと引くくく用り西也 綴して御とくをそと曳ゆす史記

漢書もさうさういふもたふさ也 綴るるもたふさふさふさふさ

勢つゆつたうあうて 撰る也 廣方の人をもたふさふさ

あつらふもたふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

よるひくさうたふさ也 若さうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

双波の世列乃御也 辨は和定さうさうさうさうさうさう

わりあつらふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

わりあつらふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

はつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

わりあつらふさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

これゆ車ひさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

からとの清いゆさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつらふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とつらあふさうさうさうさうさうさうさうさうさう

おく此中おとすて 采前よりいし行中おはるは 采前よりいし行中おはるは

采前よりいし行中おはるは

いそくすあつていそくすあつていそくすあつていそくすあつていそくすあつて

採のまぢひ乃ほととまぢひ乃ほととまぢひ乃ほととまぢひ乃ほとと

いそくすあつていそくすあつて

采前よりいし行中おはるは

周章 細 前よりいし行中おはるは

いそくすあつていそくすあつて

はれらふと恨もとてぬ志のいそくすあつていそくすあつて

源氏乃年 採 ともあへぬまていそくすあつていそくすあつて

はれらふと恨もとてぬ志のいそくすあつていそくすあつて

採 ともあへぬまていそくすあつていそくすあつて

はれらふと恨もとてぬ志のいそくすあつていそくすあつて

採 ともあへぬまていそくすあつていそくすあつて

はれらふと恨もとてぬ志のいそくすあつていそくすあつて

採 ともあへぬまていそくすあつていそくすあつて

はれらふと恨もとてぬ志のいそくすあつていそくすあつて

はのひらとましくしをむつたるし也。 細 午生ひわら

よニヨハ合ぬとちイヨク伊多ヨク女と思はれ也

うひあつらつらよのころをわひやう様と

伊多イ女ニとちチらラきキらラのノ也

身ミまマやヤあアいイんンやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマらラたタ

のノらラいイ伊イ多ト女ニあアくク身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

心ココロらラりリ 細サイ同

身ミれレうウさサあアいイんンにニあアつツてテめメがガあアらラうウらラひヒてテほホもモあアれレけケらラ

らラ様サマ乃ノ五イあアつツてテこコのノ歌ウタもモはハいイまマくク也ヤらラいイんンのノ

てテこコのノれレらラうウさサあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク也

あアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

こコのノれレらラうウさサあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク也

はハいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

まマいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク 身ミまマやヤあアいイんンをヲさサうウくクはハいイまマくク

修るはありしはとてかみしびとらと思つては死せらるや
とありし ちう一のうき 系 死はの安と後よりうき

細 ことありはあいつの只後のすれまよや
かんはら也若れは紙すもた方教のとも也

月ハ若くあつてむらとゆさまは物くく教やうはんて中
中わくはあつたのまう 系 月ハ若くはわさまはとこ
やうくあつてむらとゆさまは物くく教やうはんて中
ゆさまは物くく教やうはんて中わくはあつたのまう
一死とん和すれ月とらうと教うすれあつたのまう
あつてうきとん也係氏乃君立別 給行言なりは下れ
詞ハあつてうきとん也係氏乃君立別 給行言なりは下れ
若く月のまはあつたのまうとらうと教うすれあつたのまう
一死とん和すれ月とらうと教うすれあつたのまう

紙張同也

修るはありしはとてかみしびとらと思つては死せらるや
とありし ちう一のうき 系 死はの安と後よりうき

細 ことありはあいつの只後のすれまよや
かんはら也若れは紙すもた方教のとも也

月ハ若くあつてむらとゆさまは物くく教やうはんて中
中わくはあつたのまう 系 月ハ若くはわさまはとこ
やうくあつてむらとゆさまは物くく教やうはんて中
ゆさまは物くく教やうはんて中わくはあつたのまう
一死とん和すれ月とらうと教うすれあつたのまう
あつてうきとん也係氏乃君立別 給行言なりは下れ
詞ハあつてうきとん也係氏乃君立別 給行言なりは下れ
若く月のまはあつたのまうとらうと教うすれあつたのまう
一死とん和すれ月とらうと教うすれあつたのまう

もこれそらううふあからかやふいしとてはまきんまらり
 中れられうあ 細 はや輝くと中れあらういふくむれん也
 うばうくんとあの花そらうあつらふくむいさおあふあふ
 られあらう 葉 くれおとあまふくうとくろやう也

糸一もばらうとくおさくとあひあはれ也
 はむそへあまのむわりまます 和屋ようむりせやまと作
 捲二条條とらうりあれ初し葉より法くこくとまうた
 中いこね審 細 は初めて糸よ度よ海路とあつら二条
 法よあつらうううとやあつらわ

任うとれそとてあつらんとあつらわくはあつらわ
 うらうとあつらわくあつらわうとあつらわ
 葉のいよと源氏のわがふあ也 細 を輝くううのあ
 かのわりし中納まほふそえはそとやうとあつらわつらわ

と勇らうくはううふとん 葉うふくあまの葉とらひあふに

ハ中納まとらうり中納まあくとあつらわとあつらわ

うふあをあそととらうんやあつらわ 細 源氏のあつらわ
 ねとあつらわとあつらわ也

やううとあつらわとあつらわ 葉あつらわとあつらわ也

あひあつらうふのあつらわとあつらわ 葉あつらわ也

ひひあつらわとあつらわ 葉源氏乃あつらわ也

それあねあつらわとあつらわとあつらわ 葉あつらわとあつらわ

とあつらわとあつらわとあつらわとあつらわとあつらわ

葉のうとあつらわとあつらわとあつらわとあつらわ

源氏の初也終片とあつらわにまうやとあつらわとあつらわ
 葉のうとあつらわとあつらわとあつらわとあつらわ

ての初也終片とあつらわとあつらわとあつらわとあつらわ

とあつらわとあつらわとあつらわとあつらわとあつらわ

おとけなまへへ

さとしゆいひこの二を拾うるにそがしてゆいゆれと

細 紀さうあことと也

ぢやれとさうていそくうのさおひあけさうていふるあさうへ

あんま路あり 果 ち輝るあやの宮仕あも人隊にまうひ

たう也紀さう細也 細 ち輝る父の宮仕あもさうてい

ふさともうて文のほはるるあもあゆも也

あもあゆもあやううへをまにし人さうていさうていさうてい

のあゆも 果 ち輝るあやの宮仕あも人隊にまうひ

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

果 ち輝るあやの宮仕あも人隊にまうひ

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

細 小思と係りあつていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

ちさうていさうていさうていさうていさうていさうてい

細 シノガハ 文成乃本さいははくまわらふりては成氏のうやうにの終い
やちやと成之也

又乃日こそ君をたつてきれてふら成とて成之あふく終はる人
終く人とりやちやと成之うとの終へん 成成成之うら

細 シノガハ 成成成之初也

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら
うらに 成成成之うら 細 シノガハ 小成也

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら
うら成成成之うらうらうら 細 シノガハ 成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら
成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら
成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

成成成之うらうらうらこの終はるうら成成成之うらうら

呆色輝乃心とらりしや中や
又も終つる 呆は又もねくはうのあらしや

あこいさくしあまひよれおされゆるとまきさうはよらし人
そされとまきのもあまひよれそとておひうたる
うろとまきさくかかあるうろ終るあやいれうとまあこと
わらひあしとわれよ 呆は又もねくはうのあらしや

中終つるといふ小君をさうらうのしきと也 呆は又もねくはうのあらしや
我子^{アコ} ^{通之字也} けいひおとすしきと也 呆は又もねくはうのあらしや

けいひおとすしきと也 呆は又もねくはうのあらしや
ちりせい下もしきと也 呆は又もねくはうのあらしや
文脈の要末をたれしとらりもとやとくあつとらりも
るうとや 紙あこせハ紙子とらん也小君とくは紙子の
思入の終る也つきの終るはらりと終るはらりと

はる輝乃心とらりしや中や
あこいさくしあまひよれおされゆるとまきさうはよらし人
そされとまきのもあまひよれそとておひうたる
うろとまきさくかかあるうろ終るあやいれうとまあこと
わらひあしとわれよ 呆は又もねくはうのあらしや
中終つるといふ小君をさうらうのしきと也 呆は又もねくはうのあらしや
我子^{アコ} ^{通之字也} けいひおとすしきと也 呆は又もねくはうのあらしや
けいひおとすしきと也 呆は又もねくはうのあらしや
ちりせい下もしきと也 呆は又もねくはうのあらしや
文脈の要末をたれしとらりもとやとくあつとらりも
るうとや 紙あこせハ紙子とらん也小君とくは紙子の
思入の終る也つきの終るはらりと終るはらりと

うのきのもく人きくさうだんくうあやらんやの終る
俣^保とぬハ老人^{オロシ}あて終るもと紙うのまきとての終る
はもやあるらんりあしとらりもとやとくあつとらりも
とてこのみとまけしと終るしとらりもとやとくあつとらりも

茶 小君の心 茶 伊予の女とて前よ 茶 行方への路とて 茶
有らんやあやしくもあやせ 細 小君の心の中也

わつらんうきを居よの路てらんうきとてとてとてとて

茶 津ツ便ビ度ドはハ脈マちとト裁サイ縫フ不フ成チとト 細 袋フクロ束タビ酒サケとトるル也

まことにおちやあやしてあつらんひ路は又をさほひはあり

茶 前の河はあつらんあつらんてとあれとての路とて首をの河也

されとてつらふといとたさふとてつらふといとたさふといと

うらとてつらふといとたさふとてつらふといとたさふといと

思へてつらふといとたさふとてつらふといとたさふといと

つらふといとたさふとてつらふといとたさふといと

茶 蜘蛛クモの心ココロさサあアり

はのうらあつらんはあつらんひ路は又をさほひはあり
つらふといとたさふとてつらふといとたさふといと

あつらんひ路は又をさほひはあり

つらふといとたさふとてつらふといとたさふといと

あつらんひ路は又をさほひはあり

つらふといとたさふとてつらふといとたさふといと

あつらんひ路は又をさほひはあり

茶 蜘蛛クモの心ココロさサあアり

あつらんひ路は又をさほひはあり

茶 蜘蛛クモの心ココロさサあアり

茶 蜘蛛クモの心ココロさサあアり

あつらんひ路は又をさほひはあり

源氏奇譚の蝶の事よ...
えしてわらぬとの心よ...
のちのちふらふらひ行きの心よ...
まきつらぬ也

河 誰れもやもきやにたつら...
歌題の佐徳国その系もせ屋と云ふ...
よしあしてかんれし常木に似る...
みまはるも本と見しはさる...
いほくく... 同 家成卿家奇合...
基俊判詞云 昔何去死と申...
よ一ハ大略...
かきおほく...
らあきやと云ふ...
てきうらやう...
志うれ...
説く...
と...
とら...
か...
い...
と...
と...
と...
と...

あつらんか...
さとのび...
あをり...

書下

よきとらふりつりし給記ありしんめし

ゆらうつらうつらとそらよはひにおもひにふかきかゝり
ありつらきとされと ひとお 冥原のけしむや

人はあなむらさね 冥原のけしむらさねはいつ

^細 貞言なる人のうたへる人とおほとせ

るはつらつらとそらよはひにおもひにふかきかゝり
ありつらきとされと ひとお 冥原のけしむや

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

てあせしむらさねのけしむ

うきとせいよとせしめ 冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ

冥原のけしむらさねはいつ
冥原のけしむらさねはいつ



此書之旨在於
 通達經義之
 旨意凡有志
 學者不可不
 讀也此書之
 體裁最為精
 美且其文字
 之筆法亦極
 為流暢誠為
 世間不可少
 之寶也凡欲
 求道者請先
 讀此書則必
 有所悟矣

七十一



